

一般社団法人 日本薬学教育学会 第3回理事会 議事録

開催日時：令和3年10月27日（水）10：30～13：07

開催場所：WEB 会議システム（ZOOM）による開催

<https://us02web.zoom.us/j/89619213020?pwd=SXo1aUxVSEwrd1ZNVE0rdkc4YWttQT09>

理事：乾 賢一、中村 明弘、有田 悦子、入江 徹美、亀井 美和子、木内 祐二
小佐野 博史、高橋 一栄（～11：30）、武田 香陽子、永田 泰造、西口 工
司、長谷川 洋一、安原 智久

<欠席>：石川さと子、奥田真弘、鈴木 匡、

監事：林 正弘、吉富 博則

事務局：斎藤 渉、村上 聡

議事：

定款第35条第2項に基づき、議事録には乾理事長と林監事、吉富監事が署名又は記名押印することが確認された。

1. 前回理事会議事録案について（承認事項）

中村理事より議事録（案）に基づいて前回理事会の議事内容が報告され、議事録として承認された。

2. 2021年度定時社員総会議事録案について（承認事項）

中村理事より資料に基づいて2021年度定時社員総会の議事録案が読み上げられ、議事録として承認された。

3. 第6回大会実施報告（報告事項）

長谷川理事より第6回大会の実施報告が資料（大会報告書、収支決算書、会計監査報告書、事後アンケート集計結果）に基づいて行われた。大会では、大会長講演、特別講演、教育講演、奨励賞受賞講演4件、シンポジウム16件、ワークショップ3件、一般演題（e-ポスター）69題（一般62、学生7）がWebでライブ配信され、学生発表2題が優秀発表賞に選定された。大会の収入は助成金、企業寄付金、抄録広告費、参加費および利息で合計5,148,007円、支出は印刷・システム構築費、招聘費、運営費等で5,042,905円であった。本学会からの助成金500,000円のうち収支差額に相当する105,102円が大会事務局から学会に返金された。大会の会計については税理士の監査を受けており、適正であったことが会計監査報告書に基づいて報告された。大会終了後にGoogleフォームで実施された事後アンケート（回収率39.1%）の集計結果とフリーコメントが資料に基づいて紹介された。大会報告書は日本私立薬科大学協会総会と全国薬科大学長・薬学部長会議総会に資料として提出する。

4. 2021年度学会賞（教育研究奨励賞・教育実践奨励賞）の募集について（協議事項）

安原理事より2021年度学会賞を前年度と同様11月から募集することが資料に基づいて

提案された。大会での表彰と講演および学会誌への論文掲載を考慮して、締切日は2022年2月21日（月）必着とした。乾理事長からは、臨床現場の若い薬剤師が教育実践奨励賞にもっと応募しやすいように募集要項の記載内容を見直すと共に、理事には積極的な広報と候補者の推薦が依頼された。安原理事が募集要項の修正案を作成し、メールで提案することとした。

5. 役員選挙の実施について（協議事項）

学会事務局より、資料に基づいて2022年の役員選挙に向けたスケジュールの確認が行われた。役員選挙は定款および役員・理事長等選任細則に基づいて実施する。まず理事長は役員・理事長等選任細則第2条に基づいて、12月までに個人会員から選挙管理委員3名を選任し、理事会の承認を得て委嘱することとした。永田理事からは日本薬剤師会の役員交代と時期が一致することが紹介された。

6. 編集委員会報告（報告および協議事項）

入江理事より資料に基づいて2021年10月20日現在の学会誌「薬学教育」のJ-STAGE公開状況と論文投稿・審査状況が報告された。2022年1月末に発行する第5巻はCOVID-19の特集が含まれるため総説が増える予定である。論文審査においては、倫理的配慮の必要性について投稿者に伝わっていないことが課題である。また、質的研究に関する投稿が増えてきたので、編集委員会で審査体制を整える必要がある。

編集委員会から平田委員と大谷委員が退任したため、入江編集委員長より武田香陽子氏（北海道科学大、本学会理事）が新たに編集委員として推薦され、理事会で承認された。

7. 広報委員会（協議事項）

欠席の石川理事に変わって事務局より資料に基づいて、理事会議事録のホームページでの公開と、委員会活動のホームページでの紹介に関する協議事項が説明された。

「議事録の公開」に関しては要約版が適切との意見があり、中村理事が公開用の議事録案を作成してみて、改めて次回の理事会で協議することとした。

「委員会の活動紹介」については基本的に提案された内容で準備を進め、追加・修正等の意見は事務局で集めて石川理事に伝えることとした。

8. 「国際化委員会」の新設について（協議事項）

武田理事より「国際化委員会」の新設とその趣旨・活動内容が資料に基づいて提案され、定款第38条に基づいて委員会の設置が承認された。委員長は武田理事が務め、委員は入江徹美、平田収正、小澤光一郎、西口工司、荒川直子およびDenise Epp氏とすることが承認され、理事長が委員長および委員を委嘱することとした。

9. 日本薬学教育学会の中長期ビジョンの策定について【新規提案】（協議事項）

入江理事より、本学会設立から6年が経過したことから、新たに中長期ビジョンを策定し、共通の認識をもって学会活動を推進することが提案され、理事会として承認された。

まずは入江理事がワーキンググループで中長期ビジョンのたたき台を作成して理事会に提示することとした。ワーキンググループは3~4人の少人数とし、若い理事に参加してもらう予定とのこと。理事長からも本取組を積極的に進めるよう指示があった。

10. 第7回大会準備状況報告（報告事項）

有田理事より第7回大会の準備状況が資料に基づいて紹介された。テーマは「薬学人のアイデンティティを探る～自己実現を志向する薬学教育～」で、すでに4回の実行委員会を開催して準備を進めている。大会長は薬学部長の岡田信彦教授で、有田理事が実行委員長を務める。北里大学白金キャンパスでの対面での開催を予定しており、参加者数は約600名を見込んでいる。一般発表は約140題とし、シンポジウムは会場に限りがあるため10件程度として一般公募せず早めに決定する。基調講演「北里柴三郎の教育が今に伝えること（仮）」檀原宏文（北里大学名誉教授）、特別講演「やわらかな1.5人称～医療者と患者のより良いコミュニケーションを目指して（仮）」中野重行（大分大学名誉教授）、大会企画シンポジウム「薬学人のアイデンティティを支える研究倫理」、各一般シンポジウムの概要説明が行われた。

乾理事長の助言により、これまでの大会と同様、文部科学省と厚生労働省に大会の後援と開会式での挨拶を依頼することとした。

11. 生涯研修に関する事業について（報告事項）

永田理事より、東京都薬剤師会がプロバイダーとして準備を進めている生涯研修プログラムについて、コンセプトを中心に資料に基づいて紹介が行われた。本学会においても、大学での学修と卒後研修の連携を強化して生涯研修を推進する委員会の設置を提案する予定とのこと。乾理事長からは、日本医学教育学会が卒後教育に関する活動を活発に行っていることが紹介された。本学会も生涯教育について検討する場を設けるため、委員会の立ち上げの準備を進めていくこととし、永田理事に具体案の作成が依頼された。

12. 理事長の職務執行状況（報告事項）

事務局より資料に基づいて2021年7月1日から2021年10月27日までの理事長の職務執行状況が報告された。

13. 会員登録状況報告（報告事項）

事務局より資料に基づいて2021年10月20日現在の会員登録状況が報告された。個人会員678名、学生会員54名、機関会員66件、賛助会員8件で、会員合計は806名、会費納入率は79.6%であった。会費未納者には請求書を送付すると共に、会費滞納者には理事からも会費納入を督促することとした。

14. その他

- ・ 小佐野理事より、薬学実務実習委員会の事業は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていれば年度内に実施する方向で検討を進めることが報告された。

- ・ 「教育コンピテンシーの全国測定に関する研究会」の事業の実施計画については安原理事に事務局から確認することとした。(→※確認結果：日本薬学会の年会对面開催されるのであればそれに合わせて実施したい。2022年(1月～12月)の間を目途に進めたい)
- ・ 小佐野理事より、薬学教育モデル・コアカリキュラムや実務実習など薬学教育として新たに作ったものを継続的に評価・検証する仕組みの必要性が提言された。

以上の議事内容を明確にするため、本議事録を作成し、理事長及び出席監事がこれに署名捺印する。

2021年10月27日

一般社団法人 日本薬学教育学会

理事長 乾 賢一

監 事 林 正弘

監 事 吉富博則